

患者さん中心の透析医療を追い求めて。

ONE!

Kokuradaichi hospital

2026

VOL. 029

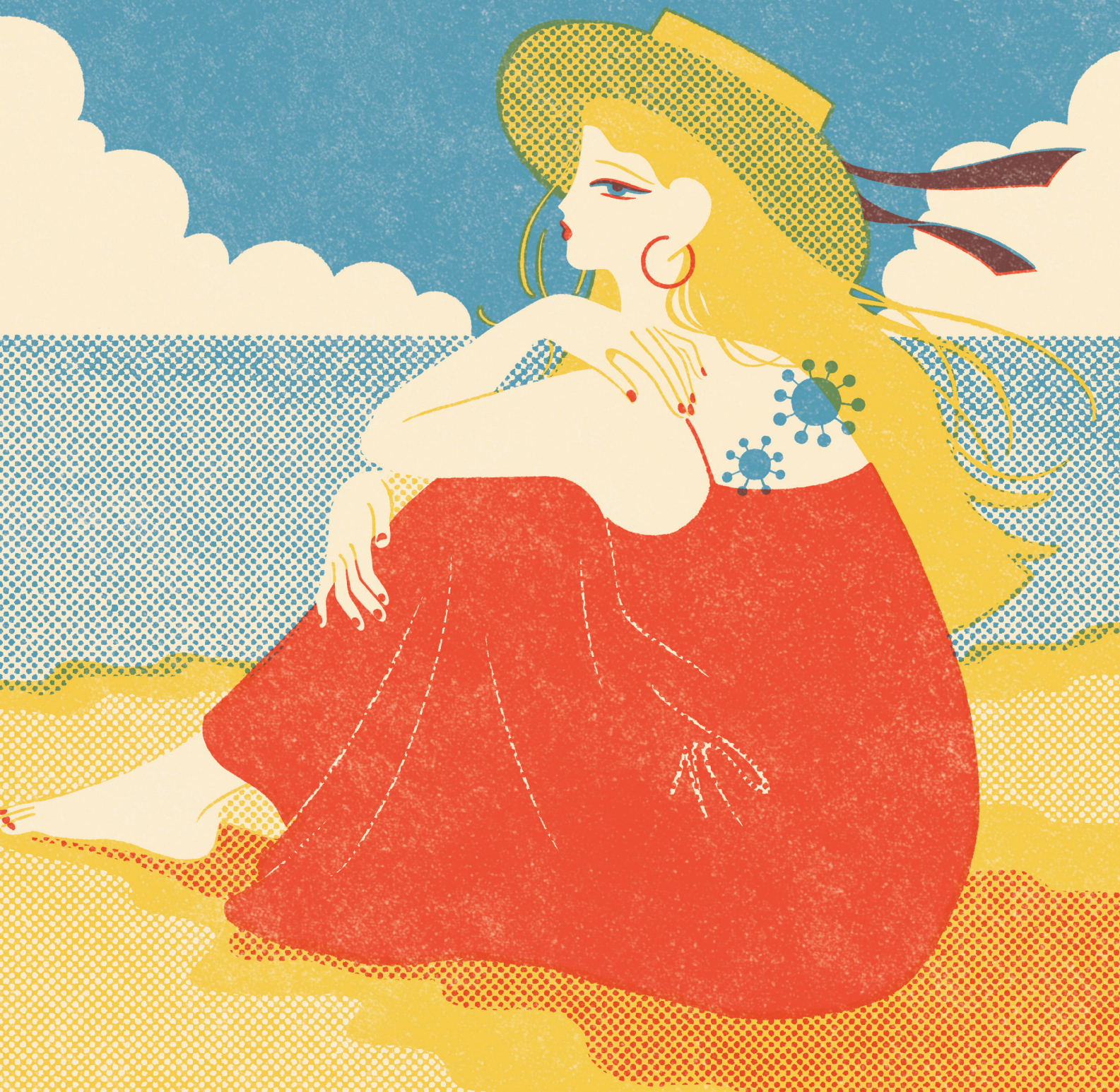
JULY



ONE!
029

2026年7月16日

生物学的製剤という新たな選択肢



小倉第一病院 思い出の一丁目一番地

私のONE!



医療DX課 主任 / 在宅透析推進室 室長

杉本 膳寿

プロフィール

06年 福岡医科歯科技術専門学校卒業

06年 坂井瑠実クリニック 勤務

15年 池田バスキュラーアクセス透析・内科 勤務

18年 医療法人やまびこ会 勤務

25年 小倉第一病院 入職

【趣味】ゴルフ・グルメ開拓。学生時代ぶりの北九州を中心とした生活で、新しいご飯屋さん開拓が楽しみです。オススメのお店があれば、教えてください。

一つの答えより、一つずつ考える

小倉第一病院で、医療DXを担当することになりました臨床工学技士の杉本です。これまで主に透析医療に関わり、患者さんの治療や暮らしを支える仕事に携わってきました。今後はその経験を活かし、職員の皆さんが働きやすく、患者さんによりよい医療を届けられるよう、病院全体の業務改善にも取り組んでいきます。

「1」にまつわるテーマをいただき、私が思い浮かべたのは、医療の現場には「一つの答え」がないということでした。透析医療も、臨床工学技士の仕事も、医療DXも、マニュアルやガイドラインだけでは割り切れません。患者さんの状態、職員の動き、病院の仕組み、そして日常の中での継続性。いくつもの要素を見ながら、その時々でよりよい形を考える必要があります。大きな正解を急いで探すより、目の前の課題を一つずつ見つめ、一つずつ考え、少しずつ整えていく。その姿勢を、私にとっての「二丁目一番地」として大切にしていきたいと思っています。



医療法人真鶴会 小倉第一病院

〒803-0846 福岡県北九州市小倉北区下到尾1丁目12-14

TEL:093-582-7730 FAX:093-592-7689

【今回の特集】生物学的製剤は、病気の原因となる特定の物質（分子）にピンポイントで作用し、炎症やかゆみを抑える薬です。従来の治療では十分な効果が得られなかった患者さんに対して、高い治療効果が期待できます。

◎表紙イラストレーター／森マリエ

Biologics / a new option

生物学的製剤という 新たな選択肢

—アトピー性皮膚炎や蕁麻疹の治療に—

「これまでの治療を続けても、かゆみや湿疹がなかなか良くならない」
——そんな患者さんに対し、新たな治療の選択肢として注目されているのが生物学的製剤です。小倉第一病院は、北九州市内でも限られた「生物学的製剤使用承認施設」として、専門的な治療を提供しています。

生物学的製剤とは？

生物学的製剤は、病気の原因となる特定の物質（分子）にピンポイントで作用し、炎症やかゆみを抑える薬です。従来の治療では十分な効果が得られなかった患者さんに対して、高い治療効果が期待できます。

皮膚科では主に、アトピー性皮膚炎・結節性痒疹・慢性蕁麻疹・尋常性乾癬・掌跖膿疱症などに使用されます。これらの疾患で、「長期間治療しても症状が改善しない」「かゆみで日常生活に支障がある」といった方に適した治療法です。近年、とくにアトピー性皮膚炎の治療は大きく進歩しています。これまでの外用薬や飲み薬では十分に改善しなかった患者さんでも、生物学的製剤によって症状の改善が期待できるようになりました。

北九州市内でも 限られた承認施設

生物学的製剤は効果が高い一方で、感染症などの副作用に注意が必要です。そのため、使用するには専門的な知識と、副作用に適切に対応できる体制が求められます。小倉第一病院は、こうした条件を満たした「生物学的製剤使用承認施設」として認定されており、北九州市内でも限られた医療機関の一つです。専門医による診察のもと、安心して治療を受けていただけます。

生物学的製剤には薬ごとに適応条件や年齢制限があります。患者さん一人ひとりの症状や治療歴を丁寧に確認し、最適な治療法をご提案します。アトピー性皮膚炎、結節性痒疹、慢性蕁麻疹、乾癬、掌跖膿疱症などでお悩みの方は、どうぞお気軽に小倉第一病院皮膚科までご相談ください。専門的な治療を通じて、つらい症状の改善をサポートします。

